



## 活動を紹介！



### 【福岡区】(令和7年度 福岡区区長 三原一高)

福岡区では、近年、地域のつながりをどのように維持し、次の世代へとつないでいくかという課題に向き合いながら、自治会活動の充実に取り組んでいます。

生活様式や価値観が多様化する中で、自治会への関わり方も変化してきており、従来のやり方だけでは参加や加入が進みにくくなっていると感じています。そのような状況の中で、地域の活動や自治会の役割をより分かりやすく伝えていくことが重要であると考えています。

その一環として、福岡区では「防災だより」などの情報発信に取り組んでいます。災害への備えに関する情報に加え、地域で行われている活動や日常の様子もあわせて発信することで、自治会の存在を身近に感じていただけるよう工夫しています。

こうした取組を通じて、自治会の役割や必要性を理解していただき、地域との関わりを持つきっかけになればと考えています。近年、自治会への加入や継続に対してさまざまな考え方がある中で、地域の中で顔の見える関係を築いていくことの大切さを改めて感じています。

また、地域の活動は一部の方だけで担うのではなく、多くの方が無理のない形で関わることが重要です。そのため、役割の分担や関わり方についても見直しを進めながら、参加しやすい環境づくりに取り組んでいます。

今後も、地域の実情に応じた工夫を重ねながら、自治会の活動が身近で、関わりやすく、そして続けていけるものとなるよう取り組んでいきたいと考えています。

# 令和7年度 防災便り

発行 福岡区自主防災会 総務部  
令和7年度（2025年度）1号



福岡区自主防災会 会長 三原 一高

「災害は忘れた頃にやってくる」と言います。この言葉を忘れず、各種災害の防止に日夜努力されている区民の皆様方に深く敬意を表します。

最近の経済発展と生活様式の急速な変化に伴い、火災など各種災害はその形態もまた複雑化しております。近年、地震や豪雨などの自然災害は全国各地で頻発しており、自然環境の変化や天候異常などによって、がけ崩れ堤防の決壊など自然災害も多発の傾向に有ります。私たちの地域も例外ではありません。ここ福岡区では昨年は火災も多発しました。私たち福岡区自主防災会は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いのもと、日々活動を続けております。災害はいつ、どこで起こるか分かりません。しかし、日頃からの備えと地域のつながりがあれば、被害を最小限に抑えることができます。訓練や活動を通して、避難経路や連絡方法の確認、そしてお互いの顔と名前を知ることが、何よりの防災力向上につながります。

どうか皆さまには、日常の中で「もしも」の時を意識し、ご家庭やご近所での声かけや備蓄の確認をお願いしたいと思えます。

最後に、地域の安全・安心は一人ひとりの協力によって成り立ちます。今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## ～今年度も避難所体験会、実施しました～

日時：令和7年 12月 13日(土) 16時～12月 14日(日) 8時

場所：福寿荘

参加者：自主防災会役員 17名

地震発生後、電気・ガス・上下水道使用不可想定



### 【体験内容】

- ① 避難所集合
- ② ファーストミッションボックス担当者指名
- ③ 防災倉庫より資機材搬入担当者指名
- ④ ファーストミッションボックスによる受付設営
- ⑤ 避難所受付
- ⑥ 防災倉庫より資機材搬入
- ⑦ 発電機2台起動によるLED照明器具点灯  
・大型石油ストーブ2台運転
- ⑧ 運営会議
- ⑨ 参加者全員によるリーダー・サブリーダー  
・厨房リーダー・大広間リーダー互選
- ⑩ 持込食材提出
- ⑪ 持込食材による料理メニュー検討
- ⑫ 持込食材により夕食準備
- ⑬ 宿泊レイアウト検討
- ⑭ 参加者全員による夕食会（反省会）
- ⑮ 簡易トイレ体験
- ⑯ 簡易ベット体験
- ⑰ 大広間での宿泊体験（7名）
- ⑱ 宿泊者プラス参加者による朝食準備
- ⑲ 宿泊者プラス参加者による朝食会



⑦発電機2台によるLED照明器具点灯  
大型石油ストーブ2台運転

12月でも大型石油  
ストーブ2台で寒さは  
しのげた



⑮簡易トイレ体験

凝固剤を投入するタイプ  
すぐには固まらない



⑯簡易ベッド体験

結構沈むので、起上る際、  
少し大変かも



⑫持込食材による自炊体験  
カセットコンロ使用調理  
※1人水2L 米1合 他 家にある食材、  
調味料持込

【持込食材】  
★調理に水40L使用  
★調味料：砂糖・醤油・塩・  
味噌・マヨネーズ・塩こん  
ぶ・顆粒だし・ケチャップ・  
レトルトソース等があれば  
調理に便利  
★食材：米・パスタ・じゃが  
いも・大根・玉ねぎ・キャ  
ベツ・菊芋・ソーセージ・  
鯖缶・豆腐・シーチキン他

### 【持込食材を使用、完成した料理】

・ごま豆乳鍋 ・みそ鍋（鯖缶入り） ・オニオンスープ ・ポテトサラダ ・菊芋サラダ  
・汁なし担々麺（乾麺 担々麺レトルトソース使用） ・キャベツ千切サラダ ・海藻サラダ  
・パスタ（ミートソース・カルボナーラ レトルトソース使用） ・おにぎり 他



一口おにぎりが好評



## ～災害時上下水道が止まったら？～

災害時には地震や浸水、停電により上下水道が同時に被害を受け、断水や排水設備破損の可能性があります。上水道が止まると飲料水や生活水の確保が困難となり、復旧には管路点検や応急給水活動が必要となります。一方、下水道は損傷や電源喪失により排水が滞り、逆流や衛生環境の悪化を招く恐れがあります。この為、**家庭では飲料水の備蓄や給水所の確認に加え、非常用トイレの準備**が重要になり、自治体はマンホールトイレの設置や応急復旧を行う時間を要するため、住民の自助・共助が不可欠となります。

### 福岡区自主防災会は、災害時の下水道について駒ヶ根市に問合せました

#### ?質問

下水道について、「避難所マニュアル」では排水管の使用可否を調べたうえで使用禁止にしていますが、具体的にはどのような状態で判断すれば良いのでしょうか。又自分達での判断が難しく駒ヶ根市より連絡がはいるとすれば、誰に情報がはいるのでしょうか。(例えば駒ヶ根市より区長に連絡がはいる)

#### 回答

地震によって水道管や排水設備が破損している可能性があります。**発災直後は、トイレなどの排水設備を使用することは控えていただくよう、駒ヶ根市が防災無線・登録制のメール・LINE等で周知を行います。**

駒ヶ根市で下水道管路の点検調査を実施し、被災した管路があれば応急復旧を行います。**使用できるようになれば、防災無線・登録制のメール・LINE等で周知を行います。**

施設内の排水管破損確認状況の確認は、建物の安全を確認後、目視で衛生器具とそれにつながる排水管の破損や悪臭の有無を確認します。

- 施設内の排水管破損状況の確認方法は、敷地内にある公共枮の蓋を開け、トイレ等から少量の水を流し、公共枮に流した水が流れているか確認します。流されてきた水が公共枮にたまったままにならず、流れているか確認します。(※2名で実施が必要)
- 自己判断が困難な場合や排水設備工事については、駒ヶ根市下水道排水設備指定工事店にご相談下さい。

### 家庭でできる「プラス10分」の備え(提案)

- ① 家の中の危険チェック(10分)  
家具の固定、ガラス飛散防止フィルムの確認など、目につく場所を見直しましょう
- ② 非常持ち出し袋の見直し(10分)  
賞味期限・電池残量・季節用品(防寒具・暑さ対策)
- ③ 家庭の連絡方法の再確認  
災害用伝言ダイヤル171や避難場所等を家族で共有しましょう
- ④ ライフライン停止への備え  
飲料水・簡易トイレ・懐中電灯など最低限の備蓄を再確認

